

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年4月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0770302644		
法人名	医療法人 ささうち内科クリニック		
事業所名	グループホーム ぶなの森		
所在地	福島県郡山市八山田6丁目45 (電話) 024-983-6355		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111番地		
訪問調査日	平成19年3月5日	評価確定日	平成19年4月27日

【情報提供票より】(2007年2月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年3月3日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建て	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300 円		

(4) 利用者の概要(2月14日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	5	要介護2	7		
要介護3	4	要介護4	1		
要介護5		要支援2			
年齢	84.9 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人ささうち内科クリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の表情が豊かで、趣味などその人らしさを大切に時間を過ごしていた。また、スタッフ間の人間関係が良好で、互いに相談したり支え合うなど、協力体制が出来ている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	職員全員で評価項目に目を通し、話し合い、提出した。ユニット間の差はなかったが、新たな気づきが得られた。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5)
重点項目	まずは、ぶなの森のことを知ってもらいたいと、入退居状況や行事の報告などを行い、参加委員からの意見を求めている。意見を元に家族への情報提供などの仕方を変えている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	苦情や意見を言う形で寄せられることは少ないが、出来るだけ入居者の状況や状態の変化を伝え、家族の意見を聞こうとつとめている。3月中には家族会の結成を呼びかけ家族間の関係づくりや連携強化にも取り組んでいく予定である。家族会からも運営への意見を吸い上げていきたいと考えている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の小学生がこの1年で定期的に来訪し、入居者と交流を持っているが、住民の間ではまだ方法を模索中である。今後町内会に加入するなどして、交流の機会を増やす予定である。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者に対して、スタッフがどのような心構えで接していくかなどの理念はきちんと作り、また職員はそれを理解し実践しようとしている。しかし、地域密着型サービスという意識が十分理解されていない。		地域の範囲をどこまでにするかということよりは、今ある関係性の中から自然な形で「地域密着型サービス」を理解し、理念を実現できるよう工夫してほしい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフも自分の言葉で理念を話すことが出来る。実際のケアの場面において実践しようとしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学生の定期的な訪問を受け入れており、その関係から小学校行事に招待されたりしている。また近くの病院の行事に参加し、地域住民と交流している。		町内会に参加し、ぶなの森の存在を地域に知らせてほしい(例えば、小学生の親御さんにもグループホームへの訪問を働きかける)。また、町内会行事に参加する機会などを通して、地域の方が気軽に訪問できるよう、出会いの機会を増やしてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で評価表記入に取り組み、自己点検している。また、ありのままの姿を見せることが評価の意義を高めることを知っており、管理者、スタッフ共に真摯な態度であった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>きちんと定期的に運営協議会を開催しており、その議事録も整備されていた。また、会議の場に出た意見を元に、家族への情報提供などに取り組んでいる。</p>		<p>家族会が未設置ということもあり、家族の代表が1名で、参加のしやすさ等から依頼した経緯がある。正式なメンバーとならなくても膨張やオブザーバーの参加を求めることなど検討してほしい。また、会議を活用していくためにも議題の広がりを検討してほしい。</p>
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>預かり金の明細及び領収書、近況報告を定期的に郵送すると共に、体調や気分の変化などには有れば、随時電話を掛けたり、面会時に報告している。</p>		<p>近況報告の内容であるが、次回報告までの行事の案内を追加することと、入居者の楽しかったり嬉しかったりした体験の報告をしてほしい。また、トラブル等の記入に関しては手元に残るものであるから表現を工夫してはどうか。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時などの機会を捉えて声を掛けたり、玄関に意見箱を設置したりしているが、家族から苦情を寄せられることは少ない。一方、入居者からは苦情があり、即時対応している。</p>		<p>3月中に家族会を立ち上げると言うことであるが、家族間で自由に話し合いや支え合いの出来る場として機能させたいという。そのためには定期開催や、一定時間が過ぎたら職員は場をはずし、その後報告のみをもらう形としてみてはどうか。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職に関しては、2週間弱の引継期間を置き、職員間で十分な引継を行うことと、異動しないスタッフが声がけ観察し、不安やとまどいに対応している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム協議会の研修などの外部研修の機会を職員へ周知し参加を促したり、2ヶ月に1~2回の内部研修を実施している。内部研修は委員会が中心となって職員に身近なテーマを取り上げたり、外部研修の伝達を行っている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>富久山町内にある他のグループホームとは特に開設当初より交流を持ち、相互訪問などを行っている。また、グループホーム協議会に加入し、研修受講と共にネットワークづくりをしている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>	/	/	/
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事の用意の際に、時間が遅れていると入居者に助けを求め、何をやったら良いんだと言いながら手伝う姿が見られた。また、共に笑い合う姿が見られた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに声を掛け、気を配っている。発語がうまくない方へも「～ですか」等の声かけで、意向を確認しながらケアをしていた。また起床時間や入浴時間などもグループホームの都合ではなく、その都度本人に聴いて対応している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成の場に行ける限り職員は参加し、それぞれの意見を出し合って作成している。家族の意向はケアマネが情報を得て反映させている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化や見直しが必要な場合は、連絡ノートを活用し、日付から3日間は申し送りで読み上げ、確認した職員には確認印を押してもらっている。また、会議に参加できない場合は、連絡ノートに記入してもらい職員一人ひとりの意見を確認している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院と言うこともあり、かかりつけ医としても協力が得られている。他医療機関にも通院・入院している方がいるが、申し送りの文書などを活用して情報交換につとめていた。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	緩和ケアを目指すという方針は決定しているが、実際には検討中である。今後入居から時間の経過により、心身ともに重度化することを予想し、介護法などの研修は実施しており、重度化しても入居を継続してもらう方針である。		ガンの末期の場合などにどこで終末期を迎えたいのかを確認したり、職員が対応しなければならぬことは何かなどをシュミレーションするなど、具体的な検討を進めてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケア提供の経過の中で、羞恥心に配慮できずにトラブルになっていたことに気づき、改善したケースを記録と管理者の話から確認できた。また、日常的なケア場面においても、個人記録の保管や記録方法にも気を配っているし、個人への言葉掛けに配慮がある。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訪問した際にやっと起床して朝食となる入居者がいたり、本人のペースを大切にしている。また、希望に添って買い物へ同行したり、散歩へ出かけたりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けなどは利用者に役割があり、職員と共に行っている。利用者が自然に入れる雰囲気作りを行っている。食事は、利用者と職員が同じテーブルを囲み楽しく食事ができるよう雰囲気作りを行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりのその日の気分や希望に応じた入浴が行われている。時間が異なったり、毎日入る方、週に2～3度の方などいることが記録からも確認できた。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	個人で散歩を行ったり、習字や塗り絵など選択できるよう案をだしたり、利用者話し合いながら行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	一人ひとりに声をかけ、散歩や買い物提案し、戸外へ出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在ホーム周辺で建築工事や道路工事があり、車両の交通量が多いため危険と、玄関に施錠がなされている。本人や家族へは説明し、同意は得ている。		現在予測不可能な行動を取る入居者はいないことから、鍵を掛けることによってかえって安心してしまい入居者の所在に注意を払うことを忘れてしまう弊害がある。施錠するよりも、常に全員の存在に気を配ることを心がけてほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消火活動、避難訓練が半年に1回行われている。</p>		<p>利用者と職員が緊急時の動きに慣れるとともに、地域の人々にグループホームの存在を認識してもらう工夫もしてほしい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>カルテに摂取水分、食事量を記入し、変化や過不足が分かるようにしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>日当たりも良く雰囲気も和やかで、居心地の良い空間となっている。入居者の作品や写真を上手に使用して壁飾りや季節感のある作品が展示してあった。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>別途以外のタンスなどは各自の持ち込みとなっており、またベッドの位置を変えたり大切なものを飾ったりすることで、それぞれ個性的で気持ちよく過ごせる空間となっている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（別紙1）を添付すること。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム ぶなの森

記入担当者名 渡久地 眞由美

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。